



健幸 plus+

市立総合病院からのお知らせ

その胸痛、大丈夫？ 心筋梗塞による死亡を防ぐために



循環器内科 科長

佐藤 照盛

心筋梗塞とは、心臓全体に酸素・栄養分を含んだ血液を運ぶ冠動脈が突然詰まってしまふ病気です。患者さんは急に胸が苦しくなり、多くは救急車で搬送されます。死亡率は約3割といわれており、24時間以内に半数以上が死亡する重篤な疾患です。日本での死亡原因は、がんが第1位で心疾患は第2位ですが、世界統計では人類の死亡原因の第1位は心疾患と報告されています。

心筋梗塞の治療法は、一刻も早く詰まった冠動脈を再開通させて血液を流すことです。カテーテルを血管内経由で冠動脈入口まで挿入し、血栓吸引や風船（バルーン）で碎くなど、物理的に再開通させます。これがPCI（冠動脈インターベンション）です。かつては点滴で血栓が自然再開通するのを待っていた時代もありましたが、PCIでは再開通成功

率が95%以上で、重大な合併症も明らかに少ないことがわかりました。PCIが世の中に普及し、心筋梗塞の急性期死亡率は、かつて30%以上ありましたが、現在は10%以下に低下しています。詰まった血管を再開通させるまでの時間は短いほど良いので、最近は病院のドアをくぐってから90分以内で治療を完了することが推奨されています。

日本は、心筋梗塞による死亡数がかんよりも少ない国ですが、それはPCIが日本中で施行されていること、国土が狭く病院へのアクセスが便利であること、救急車の体制が整っていることなどが背景にあります。

日本の医療従事者は、24時間体制で治療を行っており、昼夜問わず心筋梗塞例をPCIで救命しています。突然の胸痛症状があれば、早めに病院受診をするようにして下さい。

vol.81

「自分事として相手を思う」人権感覚

ふれあい交流センター センター長 藤田圭二

私が小学校の校長をしていた時、全校会礼で次のような話をしました。

「ある時、ある横断歩道で、お年寄りの方が困っているのを見掛けました。周りを見渡しても、あなたしかいません。そんな時、あなたならどうしますか」と言って、全校児童に3つの選択肢を提示しました。

①きつと、「横断歩道を渡りたい」のだらうと思つて、手を引いて一緒に渡つてあげる。

②何をしたいのか分からないので、しばらく黙つて見ている。

③「何かお手伝いできることはありませんか」と聞く。

この3つの中で、今の自分に一番近いのはどれかを問い、この話を続けました。

当時子どもたちは、①②③のそれぞれの立場で、それを選んだ理由を語ることができていました。私自身、いまだに本当に正しいのはどれなのか分かっていません。大切なこととは、こうした場面に会ったとき、自分だったらどうしたらいいのか考

えることだと思ひます。そして、そのような人に出会ったり、そんな場

面に遭遇したりしたら、よく考え、ちよつとだけ勇気を出して行動に移すことが重要だと思ふのです。

他人の人権を大切に、思いやりを持って接する方法は、一つではありません。「自分にとって気持ちいいこと」と、「相手が気持ちよく感じること」には、ずいぶん差がある場合もあります。「自分がされて嫌なことは、人にはしない」ということは、基本的に正しいと思ひますが、「自分がしてもらつてうれしいことは、きつと相手もうれしいだらう」と勝手に思い込むことは、やや危険であると思ひます。「善行」も押しつけがまし

かったり、強制されたりしたものは、「偽善」となることがあります。私たちに大事なことは、人を差別せず、相手の行動の背後に隠れている思いを、できるだけくみ取ることであり、できるだけくみ取ることであり、と思ひます。これは、「忖度」「斟酌」とは違つて、「自分事として相手を思う」気持ちが大切であるということです。

そうは言つても、私自身できていないことの方が多いと、日々反省をしています。

